

平成 21 年 1 月 22 日

症例報告

学校嫌いの神経性胃炎

有馬太郎

本症例は、登校日に上腹部痛を訴える中学 3 年女子生徒である。現在のクラスに馴染めず、クラスメートからいじめを受け始めた 5 月頃から、毎朝腹痛が起こるようになった。処方薬、診察所見から、神経性胃炎と判断し治療を行った。

症例：14 歳 女性 中学 3 年生

初診：平成 20 年 12 月 6 日

主訴：登校日に上腹部が痛い。

現病歴：中学 2 年の秋に現在の学校へ転校してきた。当初のクラスでは仲の良い友人でもいたが、進級時に決まった現在のクラスにはあまり馴染めなかった。5 月頃よりクラスメートからいじめを受け始め、学校がある日には腹痛が起るようになった。この様な腹痛は始めてである。特に食事が影響しているとは思わない。時々胸焼け、げっぷがでる。腹痛は起床時から昼まで続く。日によって痛みの程度に差はあるが、基本的に学校がある日は痛い。学校がない日は全く痛くない。今のクラスは好きになれないため、学校には行きたくない。睡眠は 7 時間とっているが、翌日の学校のことを考えるとしばらく寝付けないことがある。

6 月に内科を受診、内服薬の投薬治療を受けている。診断名は覚えていない。軽いアトピー性皮膚炎もあるため、皮膚科にも通院している。こうなる以前から、いつもお腹が張っていて、ガスもあまり出ず便秘気味である。食べ過ぎると胃がもたれる。内科と皮膚科双方から薬が処方されるため服用する薬の量が多い（ブチスコ、アランタ、ガスコン、ポララミン、酷い時には更に安定剤）。あまり薬を飲ませたがらない母親の勧めもあって、母に連れられ初めて鍼灸院を訪れた。

今日は土曜日であり、学校が休みであるせいか腹痛は感じない。現在体で痛い部位といえば、右膝外側に圧痛がある。2 日前に体育の授業中、思いっきり踏ん張った瞬間に傷めた部位で、その日一日自発痛があった。現在大分痛みは治まったが、まだ立ち上がる時に少し痛む。

時々左頸肩がこる。その他健康状態は良好である。前の学校ではバスケットボール部に所属していたが、現在部活は行っていない。

既往歴：特記すべき事なし

家族歴：特記すべき事なし

診察所見：身長 153cm、体重 40kg。意識状態正常。咳、熱感はない。胸焼け、胸の痛みはない。触診で腹部熱感なし。腹部膨満陽性。反跳痛なし。アトピー性皮膚炎による多少硬目の肌質。手指による間接打診法で鼓音陽性。腹直筋筋緊張陽性。軽度の圧痛が左心窩部にある。

右膝関節熱感なし。膝関節内反、外反変形なし。仰臥位での膝関節屈伸痛なし。右腸脛

靭帯緊張陽性。グラスティングテスト陽性。腸脛靭帶上の大腿骨外側果部と脛骨外側果への付着部に最大圧痛点（図 1）。

診断：本症例は診察所見から、上腹部痛は神経性胃炎と判断した。右膝外側痛は急性腸脛靭帶炎と判断した。

対応：学校とかの悩み事のせいで自律神経の働きが鈍くなり、胃の動きが悪くなったり胃の内側が荒れたりしてお腹が痛いでしょうね。鍼灸は自律神経の働きを安定させることができます。この病気は、特にデリケートな若い人に多いものですが、環境が変わりストレスが減れば痛みはなくなってくる場合が多いものです。何でもお母さんに相談して、幸いあともう少しで高校生になって学校が変わるし、それまで何度も鍼灸治療を受けてみてはいかがでしょうか。

治療・経過：母親は鍼灸学校の学生（本科 1 年）で、以前母親から手足に受けた鍼がとても痛く感じられ、以降極度に鍼や灸を怖がっている。本日も無理に連れてこられた格好で、多くの説明をしても怖さから来る緊張が取れない様子であった。よって治療は短時間でを行い、鍼はせず灸のみとした方が効果的と判断した。

治療部位は仰臥位で行った。まず灸への恐怖心を和らげる目的で左右肘関節外側に、灸点紙を用い半米粒大で 5 壮施灸した。少し安心した様子から、腹部の筋緊張緩和、自律神経機能の安定化を目的に、棒灸を用い胸骨下端から臍下部の範囲で、主に正中線を中心に行き、鍼はせず灸のみとした方が効果的と判断した。

右膝外側は、最も圧痛が強い 2 箇所に、同じく半米粒大で 5 壮施灸した。

生活指導：ストレスがあるとどうしても生活のリズムが乱れがちになり、よりいっそ自律神経の働きが不安定になってしまいます。食事や睡眠は規則的に行ってください。中学もあと少しで終わりだし、お母さんは何でも相談に乗ってくれるのだから、きっと良くなりますよ。

第 2 回（1 月 7 日、30 日後）

前回治療の 3 日後に母親から、娘が治療直後から右膝の痛みがなくなったと言っていたと聞く。しかし腹部の毎日の痛みや張り感に関しては、変化は感じられなかったという。

1 月 2 日に家族で日帰り温泉旅行した際、一度にケーキを 3 つ食べ、下腹部が痛くなつたが整腸剤を服用し治まった。

前回治療から 1 ヶ月間腹部症状に変化はなく、程度の差はあれ相変わらず登校日は朝からお腹が痛いことが多い。

学校が今日まで冬休みで、今は痛くないが明日からがまた心配であるし、母親の勧めもあって一人で来院した。今日は左頸肩に少し凝り感がある。右膝の痛みは全くない。

腹部所見は前回と変わらず。圧痛は、左上腹部と臍の左下部にある。前回は右膝外側の治療が奏効したので、今日は鍼も受けてみたいという申し出により、1 寸 -1 番鍼（30 mm -0.16 mm）で左右の天枢に単刺。2 箇所の圧痛点に赤外線照射しながら 10 分置鍼。抜鍼後、左右足三里に灸点紙で半米粒大 5 壮施灸。約 2 分間按腹。次に伏臥位で右肩井単刺、左右天柱単刺、左肩井と右上風池置鍼、10 分置鍼。抜鍼後頸肩背部を軽く 5 分程度指圧。

後日母親から娘が、治療直後は大便が普段以上に多く排泄され、お腹が軽くなり、頸肩

も楽になり喜んでいた、と聞く。以降、登校日朝の腹痛は続いているが軽い日もあり、初めて薬を飲まずに学校に行ける日もあったという。

考察：本症例の腹痛は神経性胃炎によるものと診断した。以下、その理由を述べる。

1. 学校での悩み事等のストレスを強く感じると症状がでる。

2. ストレスを感じない日は症状がない。

3. 内科から安定剤も処方されている。

なお、以下の類症疾患を除外した。

1. 胃・十二指腸潰瘍

女子で中学生である。食事による影響がない。

2. 食道炎

食事による影響がない。

3. 過敏性腸症候群

腹痛、胸焼け、げっぷができるなど、胃に関する症状が主体である。

また初回治療時にあった右膝外側痛は急性の腸脛靭帯炎と診断した

1. 急な踏ん張りで発症した。

2. グラスティングテスト陽性である。

3. 腸脛靭帶に緊張がある。

神経性胃炎は、ストレスが大きな原因となっている場合、原因となるストレスが取り除かれないと同じ環境のままでは緩快は難しいとされている。環境を変化させようがない中学生である本症例のような場合は、家族等の周囲からのバックアップが最も大切と考えられ、それに並行して鍼灸治療を行えればより良いと考えた。そこで、まずは鍼灸治療への恐怖感を和らげるよう、初回治療はごく低刺激で治療を行った。初回治療は、毎朝の腹痛に対する効果は認められなかった。しかし、たまたま愁訴としてあった右膝痛治療が奏効した結果が、本人の鍼灸に対する恐怖感を和らげ、多少なりとも信頼を得られたと推測する。その事が次回は一人で来院し、治療の奏効及び満足を得られる結果に繋がったと推測する。尤も、2回目の治療の直後効果は、腹痛の軽減ではなく張り感の消失として認められたものであるが、鍼よりもより安心感を得られやすく、腸管運動へより影響を与えるやすい按腹を併用したことが大きく影響したと考えられる。

以降多少腹痛が軽度の日もあるというが、治療回数はまだ2回であり、今後高校受験というストレスがさらに加わることも予想され、更なる治療、経過観察が必要であると考える。また、若いからこそ今回のこのような治療が奏効する場合もあるが、やり方を間違えていれば、効果を示さないばかりでなく、デリケートゆえに鍼灸への信頼も得られない結果にもなり得ていたかもしれないと思った症例であった。

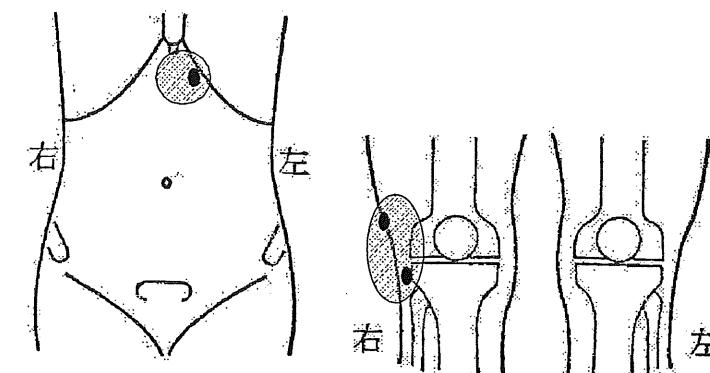


図1 �愁訴部位と圧痛部位・治療点

参考文献

- 1) 小児救急ハンドブック：メディカル・サイエンス・インターナショナル、東京、1991: 91-120.
- 2) 標準小児科学、Wikipedia、<http://xakimich.hatenablog.com/pediatrics/node/13.html>
- 3) 南山堂医学大辞典：P 1023、南山堂、2002
- 4) 西條一止：鍼灸臨床の科学、P264、医師薬出版、2001